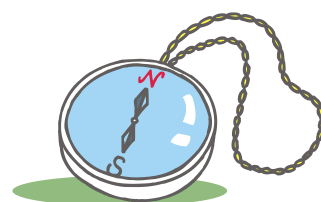


羅 針 盤

第 **31** 号

令和6年1月9日（火）



◆ 散歩のついでに富士山に登った人はいない

17日間の冬休みが終了し、新たな年が幕を開けました。生徒の皆さんもよく承知している通り、新型コロナウイルス感染症は、昨年の5月8日から5類感染症へと移行はされましたが、誰もが安心して暮らすことができるようになったと言えるまでに終息したわけではありません。「withコロナ」といった新たな価値観が定着して随分と月日が流れ去りました。禍（わざわい）ごとに振り回されながら時を過ごすのではなく、しっかりと明日を見据えた日常が過ぎゆくことを願うばかりです。さて、今回紹介する「散歩のついでに富士山に登った人はいない」という言葉、これは言い換えると「富士山に登ろうと決意をして、準備を万端に整えた人のみが登りることができる」ということです。つまり、物事を成すためには意志が必要であり、目的や目標をしっかりと定めることもなく、必死に目の前のことをいくらやったところで、自分が思っているところには決して到達することはないという意味です。また、その目的を成すためには、万全の準備を怠（おこた）ることなくしておく必要があるということを私たちに教えてくれている言葉です。皆さんの中には、これと同じようなことをしている人はいないでしょうか。部活動での日頃の練習をおろそかにして、十分な練習をしないままに試合に出場して、あわよくば勝とうと思ったり、相手もきっとそんなに練習をしていないと思い込んだり、テスト勉強でも、テスト直前になっても余り勉強もしないで良い点を取ろうとしたり、思い当たることが一つや二つはあるという人がたくさんいるのではないのでしょうか。普段の授業をいい加減な態度で受けて成績があがるようなことは決してありません。これらのことは、全て散歩のついでに富士山に登ろうとすることと同じことです。今一度、自分自身の生活を振り返ってみてください。中学校を卒業したら高校へ進学する、高校を卒業したら大学へ進学する、これらは目的ではありません。将来、どのような形で社会貢献ができる人となるのか、自分で自分の暮らしを立てていくためには、働く必要があるはずです。今の暮らしが成り立っているのは、皆さんの知らないところでお家の人が働いてくれているからです。そのためにも、散歩のついでに富士山に登るようなことをしてはいけません。3年生の皆さんは、年が明けて、本格的な進路獲得のための準備に入ってきています。また、2年生はいよいよこの春からは校内での最上級生としての活躍が期待され、1年生も新たに後輩が入学してきて良き先輩としての見本を見せていく必要があります。それぞれに、そのための準備をしっかりと行うべき時がやってきているということを自覚してもらいたいと思います。日々の学校生活で行われる学習活動や部活動、あるいは、委員会活動など、様々な活動が行われていますが、そういった日常の活動はこの言葉の中では「散歩」であり、「富士山に登る」ということは、更なる高みを目指してステップアップすることです。そのためにはトレーニングをして、道具を揃えて、それなりの準備を怠（おこた）ることなく進めておくということです。「散歩」の延長線上に、「富士山に登ること」はあり得ないのです。目標を決めたら、準備をしてその頂（いただき）に向けて一歩ずつ着実に歩みを進めていくことで、皆さん一人ひとりに、自分の中の頂上を目指してもらいたいと思っています。

